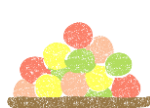




三漕保育園 園だより

March 2022



クラス目標 ~1か月大切にしたいこと~



4月から子ども達と過ごした1年が区切り迎えようとしています。
この1年も出来る範囲で工夫したり、対策を取った上で時間を過ごしてきました。

確かに今までのみづま保育園の行事とは違うかもしれない。
確かに今までのやり方とは違うかもしれない。
確かに今までの結果とは違うかもしれない。
ですが、保育園で子ども達と過ごす保育士たちは確実に感じています。

子ども達の感性や、成長を違った形で気付く事が出来、伸ばすが出来ている、と。

我々にはない感性で世の中を見る子ども達というものを再発見できた1年でした。

これまでもお伝えしてきた近年の保育の改革。
「子ども主体」「アクティブラーニング」等、様々な言葉で表現されます。

子どもは有能であり一人の人格を持つ尊厳ある存在である、と認識する事から始まります。その存在にリスペクトをし、子どもの声を聴くと面白いことが沢山です。

子どもって、大人より出来ない、わからない人と思うのではなく
大人には分からない事に 気づき、疑問を持ち、興奮し、探求し、
分かりたい、成長したい、真似たい、やってみたい！という意欲の塊だということ。

そんな気持ちを受け止めながら真摯に保育に繋げるには我々はどうしたらいいのか、
学び続け、実践を繰り返す日々でした。

さて、そんな中、大きなクラスの子も達は、年間で掲げたテーマに沿って、緩やかに連続性のある保育を行ってきました。

今までの経験とつなげ問題意識を持ち、どうやったら解決するのか考える事。
疑問に思ったらそのままにせず、口に出して解決してみようとする事。

それらは、問題解決能力、批判的思考力と呼ばれるこれから生きるためにとても大切な要素です。与えられるだけではなく、自分で切り開く力を身につける！

卒園する22名には太鼓判を押して、その歩きだす背中に手を振りたいと思います。

そして、4月からみづま保育園で成長する子ども達は新しく生まれ変わった園舎で、
又楽しく愉快的時間を過ごしながら成長していきたいと思っています。

たんぽぽ組

- ・安心できる心地よい雰囲気の中で元気に過ごす。
- ・保育者と関わりながら、触れ合ったり手足を動かして遊ぶことを楽しむ。

もも組

- ・戸外遊びや散歩を楽しみながら春の自然を見つけ触れる喜びを味わう。
- ・保育者に見守られながら排せつ、着脱、食事などの身の回りのことを自分でやれる喜びを味わう。

ばら組

- ・戸外遊びを通じて、日差しの温かさや草花の様子に興味をもち春の訪れを感じる。
- ・自分で身の回りの事が出来る事に喜びを感じ、進級する事に期待をもって生活する。

うめ組

- ・進級への喜びと期待を持ちながら、日々の生活を楽しく過ごす。
- ・春の訪れを感じながら戸外で過ごす気持ちよさを味わう。

すみれ組

- ・進級する事に期待を持ち、何でも自分でやってみようとする。
- ・身近な自然の変化に気付き、春の訪れに興味・関心を持つ。
- ・就学に対する期待を高めながら、いろいろな活動に積極的に取り組む。

ゆり組

- ・保育園での生活を振り返り、自分自身の成長を感じたり、周りの人に対する感謝の気持ちを持つ。

3月の行事予定



9日(水)	お別れ遠足 お弁当の日	24日(木)	卒園式準備
15日(火)	避難訓練	25日(金)	卒園式 *ゆり組のみ参加
17日(木)	お別れ会	26日(土)	お弁当の日
18日(金)	制服お渡し	28日(月)	修了式
22日(火)	身体測定 お誕生会		お弁当の日

●自由登園●

28~31日は
自由登園です。
ご都合のつく
ご家庭は家庭保育
にご協力ください。

●みず展 開催のお知らせ●

ゆり組の子ども達と年間を通して活動してきた《水の連ドラ》のパネル展を開催する事になりました。筑後川に泳ぐお魚たちも無料で見る事が出来ます。
是非皆さん、お出かけください。

日時 3月5日(土)~31日(木) 場所 くるめウス(百年公園東側)



寒さの中にも、少しずつ春の暖かい日差しが感じられるようになり、年長ゆり組22名の卒園も間近になってきました。

ブカブカの制服に新しい名札をつけてもらおうと、嬉しそうな表情をしていた子、ちょっぴり不安そうなあどけない子ども達の姿が3年前の入園式でした。そして、今、ひとまわりもふたまわりも大きくなった自信に溢れたゆり組が、凜とした表情で卒園式に臨みます。

ゆり組の子ども達は、この1年間に驚く程の成長を見せてくれました。運動会、お遊戯会、器楽発表会の練習を通し、1つひとつをクラスみんなで乗り越え、1人ひとりが頑張ってくれました。

もちろん、これまでの道のりには、いろいろな心の葛藤があったことは言うまでもありません。泣いたり、笑ったり、けんかしたり、保育者に心の内を聞いてもらったり、抱きしめてもらったりしながら、自分の力で一步一步前へ進み、見えないゴールへ向かいました。素晴らしいのは、子ども同士、お互いが影響し合い、育ちあって成長したということです。ありのままの自分でいいんだ、みんな違っていいんだ、ゆっくりでいいんだと大切なことに気付いた子ども達。お互いの良さを認め合い、やさしさを分け合って、かけがえのない友達の存在を実感した子ども達。友達との結びつきをどうしたらうまくやっていけるのか、人としての大切なことを学んだ子ども達。自分で考え、決断し、行動する力、困難を乗り越える力、やわらかい感性と生きる力を身に付けた子ども達。そして、何よりも誇らしく思うのは、子ども達の心が優しく思いやりに溢れているということです。

共に遊び、共に笑い、涙してきた私は、子ども達のやさしさに勇気づけられ、なぐさめられ、喜びをたくさん分けてもらいました。

保護者の皆様におかれましては、至らない点も多くあったと思いますが、いつも温かく見守っていただきありがとうございました。これからも、子ども達の成長振りに期待し、ずっとずっと応援しています。

ゆりぐみさん、せんせいはみんなといっしょにすごすことができ、とってもしあわせでした。

ありがとう！！

